

子ども我が子も 人の子も同じ地域の宝

鹿児島市立河頭中学校

見知らぬ女性が貸してくれました。」とのこと。雨の中バス停に立っていると、その女性が傘を窓から差し出して「返すときは、バス停に掛けておいて。」と走り去ったそうである。

翌日、その生徒が「昨日、バス停に傘を掛けておいたら、今朝はなくなっていました。」と笑顔で教えてくれた。「感心だったね。」と褒めると共に、生徒は、その女性から受けた親切を思い出し、将来、同じようにするだろうと思った。

ある日、校門で登校指導をしているとバス通学の生徒がカラフルな傘をさして登校してきた。「急な雨で大変だったね。お母さんの傘ね。」と尋ねると「車で通りがかった

地域の行事に積極的に参

加させ、豊かな心を育み地域で見守ることを共通実践事項としている。

本校生徒の取組の一つに地域の夏祭り等でエイサー・舞踊を披露することが恒例となっている。総合的な学習の時間に中学生の主体的な取組を披露する機会でもあり、地域の方々にも大変喜ばれている。また、地域行事に積極的に参加し、中学生が運営補助の役割を果たすことで自己有用感も高まっている。

先ほどの傘の話のように、地域の方々を意識して小・中学生の姿を見かけた時に挨拶や「この間

はありがとう。」等の声かけに子供の見守られ感が高まり、青少年健全育成に十分つながると感じる。まさしく人の子も我が子と同じ地域の宝である。河頭中地区青少年健全育成協議会の取組を通して、宝である子供たちの健全育成を目指して各地域と連携を図っていく。

(校長 瀧脇広智)



小山田校区文化祭でエイサーを披露